

「深い学び」へ ICTを効果的に活用

高橋 純・東京学芸大学准教授



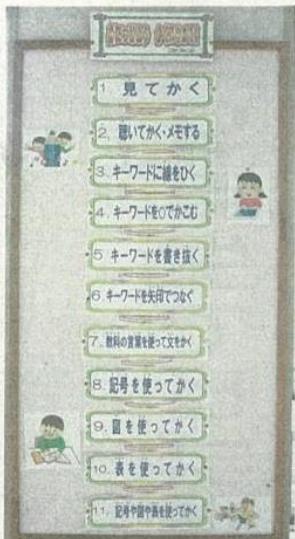
藤の木小学校では、表現ひくや図を使ってかくの中で特に難しい「かく活動」に力を入れて取り組んでいる。さまざまなお子どもたちの実態に合わせ、まずは目指すべき力を「キーワード」に線をつけていく。

目指すべき力意識付け図りながら

長年、ICT活用に取り組むことができてきているのは、ICTはポイントがある。「準備Tを扱う上でのルールづくりや学習規律であるという」ことも学ぶべき点の一つである。

特色の一つである。また、ICTで「かく活動」のものを支援したり、「かく」上での材料をコンピュータの画面に映したりするなど、さまざまに活用

広島市立藤の木小学校



「かくスキル11」の掲示物は各教室にも張られている

「かく活動」に着目

まずスキルを身に付け

毎朝、子どもたちが登校して目にする「階段下の掲示物」。「深い学び」への鍵と考える「かくスキル」。「情報収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の三つで整理してまとめたもの。「線を引く」や「絵を描く」など、「かく」にはいろいろな意味があること

から平仮名で表記している。タブレットPCは、そこから情報を得て、「かく」のためのツールとして活用。考え、試行錯誤したことは、最終的にノートにまとめている。すみ分けを図り、学習活動を効果的に進めることがねらいだ。

「かく活動」に着目したのは、「かく」行為自体が思考活動そのもので、学習に主体的に取り組むことに繋がる」と話す島本校長。し



ICTを活用する上で学習規律がベースとなっている

1日の研究発表会では、子どもたちが「かくスキル」を働かせて何度も思考し、表現している姿が一つの見どころになる。こうした取り組みを支えているのが、タブレットPCを活用して授業で作成してきたこと。その数は千ほどあり、共有サーバーのフォルダ（学年、教科別に整理）に保存している。その中から、「かく活動」として有効に使えるものを選び、アレンジを加えるなどして活用している」と語る研究主任の村中智彦教諭。教師一人一人は専門とする教科などを考慮



タッチペンで教材に自分の考えなどを書き込む児童

今後、研究を深める上で「聴く力」や「読解力」に着目していく。島本校長は「かく活動」とそれらの力は関連している。今後、「聴く力」や「読解力」のレベル化も考えてみたい」と話している。

藤の木小 082
927・4545